



# 2024 年度 農林体験学習のご案内



ハケ岳中央農業実践大学校  
農林体験学習事務局

# 体験学習の意義

## 生きる力

学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

【文部科学省：改訂学習指導要領より】

体験学習とは、自分の身体を通して実際に経験する活動のことであり、実物に身を持って関わる「直接体験」、ITやTVを介して感覚的に学ぶ「間接体験」、ゲームやVRを通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」があります。しかし、「間接体験」や「擬似体験」が圧倒的に多くなった現代では、重視されなければならないのは、ヒト・モノに実際に触れ、**五感**を働かせ、関わり合う「直接体験」です。

私たちは、学校で学んだことが、「生きる力」をはぐくむ力になることが、体験学習だと考えます。普段の学びの場とは違う環境に身を置き、実際に作物・経済動物・樹木などに触れ作業を行い、**五感**を通して「生きる力」を育み、農と食と健康、命の尊さ、自然や環境問題に理解と関心を深めることを大切にしています。

## 農林体験による「生きる力」の向上へ

- ・非日常の生活環境の中で**五感**を育くむ。
- ・「経済動物」とは何かを知り、**命の尊厳**を実感する。
- ・「あたり前の日常生活」の背景を学び、本物を知る。
- ・地球環境を守る大切さを知り、身近な問題として取り組む。
- ・農林業の大切さを知り、将来の日本の農林業について考える機会とする。
- ・勤労の意義を理解し、収穫の喜びや達成感を実感する。

# SDG's 私たちの取り組み



## SDG's とは

「Sustainable Development Goals」の略称であり、日本語訳では「持続可能な開発目標」という意味です。これは、全世界で 2016 年から 2030 年までに達成する国際目標として、2015 年 9 月の国連総会にて全会一致で採択されました。地球上の「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するために、教育やジェンダー、不平等、生産・消費、海洋資源など 17 の目標・169 のターゲットが定められています。

持続可能な開発目標 (SDG's) の理念を踏まえ、これらを農林体験学習で取り組むことの意義は非常に大きいと考えます。農林体験学習における農産部門や加工部門、また、森林部門の体験活動を通じて、自然の中でひらめきや創造性を大切にし、日常生活の「ありがたさ」や「利便性」を肌を感じるにより、「問題意識を持つ」こと、「将来を考える」ことなどに繋がります。しいては、「**生き抜く力**」の基礎になることでしょう。

私たちは体験学習活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

# Animal Welfare

## アニマルウェルフェアとは

アニマルウェルフェア（Animal Welfare）とは、感受性を持つ生き物としての「家畜」に心を寄り添わせ、誕生から死を迎えるまでの間、ストレスをできる限り少なく、行動要求が満たされた、健康的な生活ができる飼育方法をめざす畜産のあり方です。欧州発の考え方で、日本では「動物福祉」や「家畜福祉」と訳されてきました。

1960年代のイギリスでは、工業的な畜産のあり方を批判した、ルース・ハリソン氏の『アニマル・マシーン』が出版され、大きな関心呼びました。イギリス政府が立ち上げた委員会は、「すべての家畜に、立つ、寝る、向きを変える、身繕いする、手足を伸ばす自由を」という基準を提唱します。こうした動きを受け、家畜の劣悪な飼育環境を改善させ、ウェルフェア（満たされて生きる状態）を確立するために、次の「5つの自由」が定められました。

1. 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
2. 恐怖及び苦悩からの自由
3. 物理的及び熱の不快感からの自由
4. 苦痛、障害及び疾病からの自由
5. 通常の行動様式を発現する自由

今では「5つの自由」は、家畜のみならず、人間の飼育下にあるペットや実験動物など、あらゆる動物のウェルフェアの基本として世界中で認められています。

本校の酪農・養鶏で飼育されている牛や鶏は、アニマルウェルフェアの精神に則り、施設の新設及び改修を施し、また飼育方法の抜本的な見直しを行うなど、取り組んでいます。

# 2024 年度 体験学習実施要項

## 受入期間

2024 年 5 月 8 日（水）～10 月 31 日（木） ※日曜日を除く

## 受入対象

小学 5 年生以上

団体（学校）単位で、事前の申し込みが必要です。

## 最大受入人数

250 名

## 体験学習参加料金

		非営利団体（教育機関）		営利団体（民間企業）	
		高校生以下	大学生以上	高校生以下	大学生以上
半日コース	参加費（税抜）	2300 円	2800 円	2800 円	4100 円
	消費税（10%）	230 円	280 円	280 円	410 円
	合計	2530 円	3080 円	3080 円	4540 円
一日コース	参加費（税抜）	3800 円	4500 円	4500 円	6300 円
	消費税（10%）	380 円	450 円	450 円	630 円
	合計	4180 円	4950 円	4950 円	6930 円

※上記以外にも、各種団体及び民間企業向けの職員研修を実施しています。ご相談ください。

## 体験学習タイムスケジュール

半日午前コース		半日午後コース		一日コース	
集合（トイレは済ませる）		集合（トイレは済ませる）		集合（トイレは済ませる）	
9:00	開校式	13:00	開校式	9:00	開校式
9:15	ワークショップ開始	13:15	ワークショップ開始	9:15	ワークショップ開始
11:30	ワークショップ終了 閉校式	15:30	ワークショップ終了 閉校式	11:30	ワークショップ終了 集合・挨拶
11:45	終了	15:45	終了	11:45	午前の部 終了
— 昼食・休憩 —					
				13:00	開校式
				13:15	ワークショップ開始
				15:30	ワークショップ終了 閉校式
				15:45	終了

## ワークショップと受け入れ人数

ワークショップ	最小人数	最大人数	備考
やさい	18	24	
酪農	18	22	午前のみ
養鶏	18	22	午前のみ
チーズ・バター	18	22	
ジャム	18	22	
炭焼き	18	24	
木工	18	24	
林業	10	18	中学生のみ
森づくり	18	250	

※参加人数が少・多の場合はご相談ください。

## 体験学習コース

コース	AM	PM
一日	選択 WS	選択 WS (酪農・養鶏は選択不可)
半日午前	選択 WS	-----
半日午後	-----	選択 WS (酪農・養鶏は選択不可)

# ワークショップの概要

農産・畜産部門
やさい
酪農
養鶏
加工部門
チーズ・バター
ジャム
林業部門
炭焼き
木工
林業
森づくり

## ■ やさいワークショップ

受入定員：18～24名

内容：播種（種まき）、植え付け、間引き、草取り、摘み取り、収穫などの作業

持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、帽子、雨具（上下別合羽）

- ・ 普段食べている野菜がどのように植えられて、育てられて収穫・出荷されているのかを畑で体験し、店頭にならぶ野菜と何が違うのかを考えます。
- ・ 本ワークショップは気象状況に大きく影響を受けます。ご了承ください。



## ■ 酪農ワークショップ（午前のみ開催）

受入定員：18～22名

内容：牛の行動観察、牛舎内視察、牛との触れ合い、擬似搾乳体験など

持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、帽子、雨具（上下別合羽）

- ・ 普段飲んでいる牛乳はどのような過程を経て生産されているか、牛の生活に触れて「経済動物」とは何かを学び、命の尊さを考えます。



## ■ 養鶏ワークショップ（午前のみ開催）

受入定員：18～22名

内容：平飼い鶏舎にて、集卵、水変え、給餌、清掃などの作業

持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、帽子、雨具（上下別合羽）

- ・ 鶏と触れ合うことで、普段食べている卵はどのような過程を経て生産されているか、鶏の生活に触れて「経済動物」とは何かを学び、命の尊さを考えます。





## ■ チーズ・バターワークショップ

受入定員：18～22名

内容：牛乳を用いて、酸・アルカリの反応作用を利用し、チーズ（カッテージチーズ）を作ります。

使用食材：牛乳、レモン果汁、砂糖、塩、他

持ち物：三角巾、エプロン、マスク、雨具（上下別合羽）

- ・チーズやバターがどのように加工され、製品となるのかを知り、その栄養価や経済性の意義を学びます。



## ■ ジャムワークショップ

受入定員：18～22名

内容：主に大学校で生産する野菜を用いてジャムを作ります。

持ち物：三角巾、エプロン、マスク、雨具（上下別合羽）

- ・昔から伝わる保存食として、また、生産物のロスをなくす術として行われた加工を知り、その価値や役割を学びます。



## ■ 炭焼きワークショップ

受入定員：18～24名

内容：昔は燃料として使われていた薪を作り、火をおこして焚き火を行い、それを熱源として華炭（はなずみ）を焼きます。

持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、帽子、雨具（上下別合羽）

- ・炭の特性を知り、その役割について学び、森林資源の活用方法を考えます。



## ■ 木エワークショップ

受入定員：18～24名

内容：小学生は唐松や白樺の端材で「鉛筆立て」を、中学生は落葉松の切端を使い、グループで「ベンチづくり」を行います。

持ち物：ゴム引き作業手袋、帽子、雨具（上下別合羽）

- ・廃材の木々を有効に活用し、物の大切さや工夫することの意義を学びます。また、「切る」、「打つ」、「止める」道具の使い方を習います。



## ■ 林業ワークショップ（中学生以上）

受入定員：10～18名

内容：木登り補助具を用いて木に登り、枝打ち作業を行います。

持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、雨具（上下別合羽）

- ・木を育てる仕事の大変さや技能の大切さを感じ、人と森のかかわりを学びます。
- ・枝打ち作業を行うにあたり、高所の枝を伐る体力と度胸が必要となる、高度なワークショップです。



## ■ 森づくりワークショップ

受入定員：18～150名

内容：校有林内で、下草刈、除伐、植林、特定外来植物駆除、遊歩道整備などを行います。

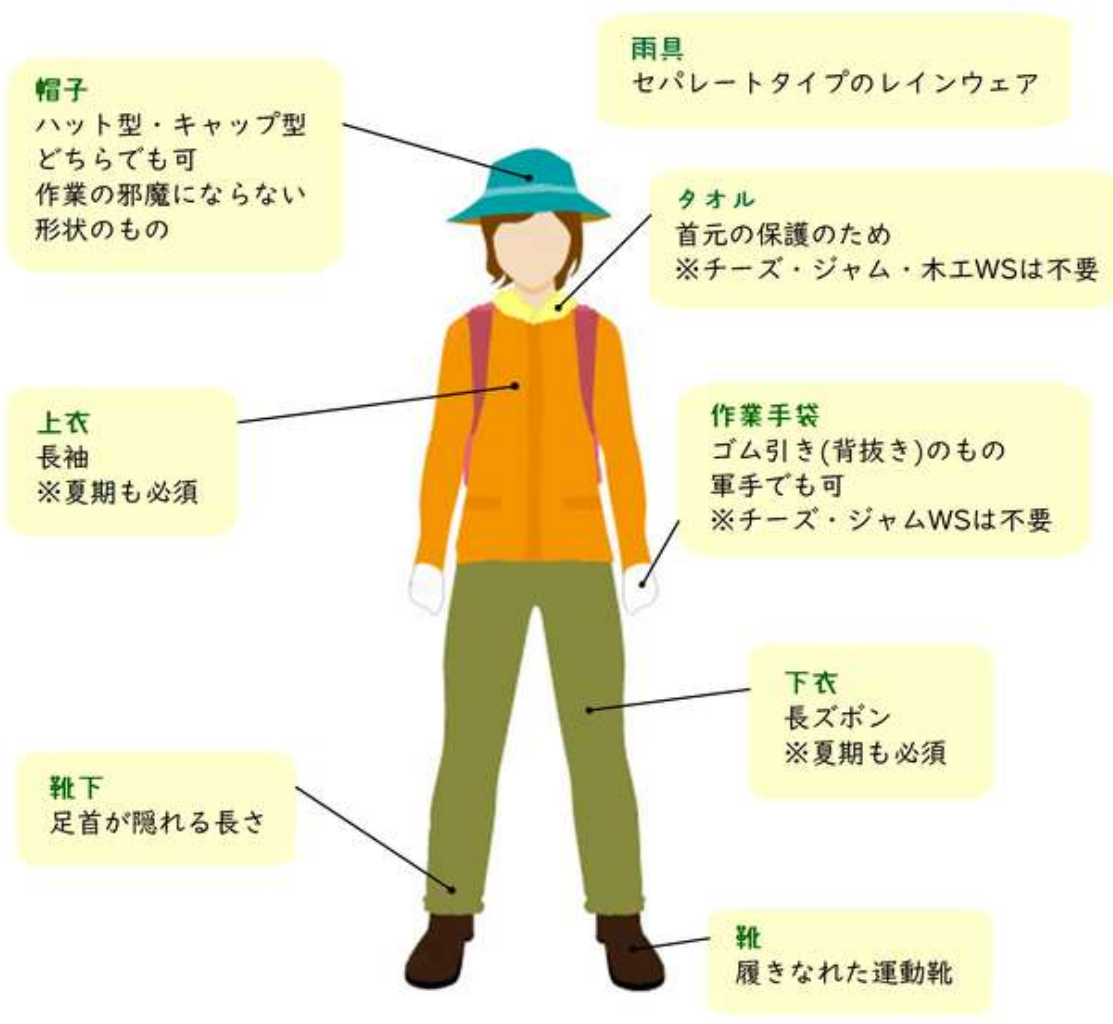
持ち物：ゴム引き作業手袋、長いタオル、雨具（上下別合羽）

- ・森林整備にかかわる作業を“手のこ”で行い、作業を通じて、人と森のかかわりや森の役割について学びます。
- ・安全に作業するためのコミュニケーション能力を養います。



## 体験学習時の服装について

- ・参加する児童・生徒のみならず、引率の先生方におかれまして同様です。
- ・各ワークショップにより、持ち物が異なります。各ワークショップのページをご確認ください。



# 直売所のご案内

本校の直売所では、本校産の野菜、牛乳、ヨーグルト、チーズなどをはじめ、八ヶ岳地域のお土産を販売しています。体験学習とともに、是非ご利用ください。

※ 注文及び支払いは、直売所（TEL/FAX：0266-74-2080）に、直接お願いいたします。  
農林体験学習の費用と合算した請求、振込みはできません。

## ソフトクリーム

（団体割引有り・応相談）

ソフトクリームミックス：乳製品、砂糖、デキストリン、卵黄（卵を含む）／乳化剤、カゼイ Na、安定剤（セルロース、増粘多糖類）、香料、リン酸塩、カロチン色素

アイス用コーン：小麦粉、コーンスターチ、ショートニング、砂糖、脱脂粉乳、食塩／香料、乳化剤（大豆由来）、ベーキングパウダー、甘味料（ステビア）、アナトー色素





## アクセス

### ◇ 自動車利用の場合

中央自動車道 諏訪南 IC 下車 約 25 分  
 中央自動車道 小淵沢 IC 下車 約 20 分

### ◇ 電車利用の場合

JR 茅野駅下車→バス・タクシー利用

◎ 実地踏査にお越しになる際は、農林体験学習事務局までお越しください。

◎ 農林体験学習当日は、大型バスを、本校本館（赤い屋根）向かいの駐車場（御柱道沿い）に止め、開校式が行われる緑のテントまで、徒歩で移動してください。

〒391-0112

長野県諏訪郡原村 17217-118 (plus code : X7GC+Q3 原村、長野県)

八ヶ岳中央農業実践大学校 農林体験学習事務局

TEL 080-1269-1753 FAX 0266-75-1131



〒391-0112

長野県諏訪郡原村 17217-118

ハヶ岳中央農業実践大学校 農林体験学習事務局

TEL 080-1269-1753 FAX 0266-75-1131

Mail: [info.nourintaiken@gmail.com](mailto:info.nourintaiken@gmail.com)

HP: <https://yatsunou.jp/taiken/>